

いしもん
石門

石門は大小天守の北東に位置する、石垣の下部に作られたトンネル状の通路のことです。

2つある石門

石門は、小天守の穴蔵（現在の天守閣入口）を出て、石段を降りた先から東竹の丸へ延びる石門と、東竹の丸から宇土櫓下へ延びる石門の2つがあります。「御城内御絵図」（明和6年〔1769年〕頃作成）によると、天守側の石門を「中之石門」、宇土櫓側の石門を「外之石門」と呼んでいたことがわかります。現在、石門内部の高さは1.3mほどになっていますが、発掘調査の結果、本来は1.6mほどであったことがわかりました。

石門の年代

石門がいつ頃に作られたかははっきりしません。元禄15年（1702年）に幕府へ提出した石門周辺の石垣修理を申請する史料が残っていること、石門内部の石材に「元禄十七年甲申三月日」という文字が刻まれていることから、遅くとも元禄17年（1704年）には石門があったことがわかっています。



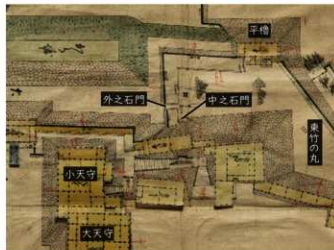
崩落石材回収後の石門（令和4年〔2022〕12月）

基礎情報

中之石門…幅：約1.9m、高さ：約1.6m、長さ：約9.2m
外之石門…幅：約1.2m、高さ：約1.5m、長さ：約4.0m

石門周辺石垣の被害状況

平成28年熊本地震で石門周辺の石垣にも大きな被害がありました。特に「中之石門」の真上の石垣と、平櫓西側の石垣が大きく崩落しました。令和4年（2022年）に約2000石の崩落した石材を回収しました。「外之石門」北側の崩れた石垣の変状部分は令和6年（2024年）から解体予定です。



御城内御絵図（熊本市蔵）



崩落した石材でふさがった石門入口（平成28年〔2016年〕4月）